

様式第2号の1-②【(1)実務経験のある教員等による授業科目の配置】

※専門学校は、この様式を用いること。大学・短期大学・高等専門学校は、様式第2号の1-①を用いること。

学校名	日本メディカル福祉専門学校
設置者名	学校法人 瓶井学園

1. 「実務経験のある教員等による授業科目」の数

課程名	学科名	夜間・通信制の場合	実務経験のある教員等による授業科目の単位数又は授業時数	省令で定める基準単位数又は授業時数	配置困難
医療専門課程	臨床工学科 (新) (旧)	夜・通信	540 時間	80 時間×3 年 240 時間	
	臨床工学専攻科	夜・通信	270 時間	45 時間×2 年 90 時間	
社会福祉専門課程	こども福祉学科	夜・通信	180 時間	80 時間×2 年 160 時間	
	保育士科	夜・通信	8 単位	通信制 3 年 6 単位	
文化教養課程	日本語学科 2 年	夜・通信		80 時間×2 年 160 時間	○
	日本語学科 1.5 年	夜・通信		80 時間× 1.5 年 120 時間	○
	日本語学科 1 年	夜・通信		80 時間×1 年 80 時間	○

(備考)

2. 「実務経験のある教員等による授業科目」の一覧表の公表方法

<https://www.nmf.ac.jp/koutoukyouiku.html>

3. 要件を満たすことが困難である学科

学科名	日本語学科
(困難である理由) 日本語学科は日本語の文法、読解、文章の作成および会話などを行う学科であります。他学科のような特定の職業に対する実務を学ぶ学科ではないことから日本語学科においては実務経験を有する教員が在籍しておりません。	

様式第2号の2-①【(2)-①学外者である理事の複数配置】

※ 国立大学法人・独立行政法人国立高等専門学校機構・公立大学法人・学校法人・準学校法人は、この様式を用いること。これら以外の設置者は、様式第2号の2-②を用いること。

学校名	日本メディカル福祉専門学校
設置者名	学校法人 瓶井学園

1. 理事（役員）名簿の公表方法

<https://www.kamei.ac.jp/report.html>

2. 学外者である理事の一覧表

常勤・非常勤の別	前職又は現職	任期	担当する職務内容 や期待する役割
非常勤	(前職) 名商物産株式会社 (昭和42年4月1日～ 昭和58年7月31日) 「昭和58年9月26日 時点では無職」	昭和58年 9月26日 ～令和9年 9月25日	渉外・調整
非常勤	(現職) トナミ電工株式会社 取締役社長 (平成20年5月1日～)	令和5年9 月26日 ～令和9年 9月25日	経営(産業界の動向 把握)・研修
(備考)			

様式第2号の3 【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】

学校名	日本メディカル福祉専門学校
設置者名	学校法人 瓶井学園

○厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表の概要

<p>1. 授業科目について、授業の方法及び内容、到達目標、成績評価の方法や基準その他の事項を記載した授業計画書(シラバス)を作成し、公表していること。</p>	
<p>(授業計画書の作成・公表に係る取組の概要)</p> <p>授業科目については教務会議で教育指針を決定し、その指針に基づいて各科目担当教員により、授業の方法や内容、到達目標、成績評価の方法を記載したシラバス(授業概要)を作成していただいております。それに従った内容で授業を行っている。また、シラバス(授業概要)を日本メディカル福祉専門学校のホームページにて公表を行う。</p>	
授業計画書の公表方法	https://www.nmf.ac.jp/koutoukyouiku.html
<p>2. 学修意欲の把握、試験やレポート、卒業論文などの適切な方法により、学修成果を厳格かつ適正に評価して単位を与え、又は、履修を認定していること。</p>	
<p>(授業科目の学修成果の評価に係る取組の概要)</p> <p>シラバスに(授業概要)より、各試験、レポート、平常点(学習の意欲)の割合などを記載し、それに則って、各教員より成績評価をいただく。 また複数の教員が授業を行う場合は、全ての成績を合算し、平均をとって最終的な成績評価としている。</p>	

3. 成績評価において、GPA等の客観的な指標を設定し、公表するとともに、成績の分布状況の把握をはじめ、適切に実施していること。

(客観的な指標の設定・公表及び成績評価の適切な実施に係る取組の概要)
公表しているシラバスの内容に基づき、以下の方法にて成績評価を行っている。

- ① 学業成績は、授業概要に記載のある各科目の「単位認定の方法及び評価の基準」に基づく客観的基準により決定される。
- ② 評価は、秀 (100点～90点) 優 (89点～80点)・良 (79～70点)・可 (69～60点)・不可 (59点以下) で60点以上を合格とし、それに満たないものは不合格とする。
- ③ 客観的評価 GPA 制度について
GPAとは、「Grade Point Average」の略で、授業科目の成績評価に対して点数GP (Grade Point) を与え、その点数に各科目の単位数を乗じた合計を、各学年の科目の総単位数で割って算出した平均値のことをいう。

成績評価基準と GP

成績評価	GP	備考
秀	4	到達目標を十分に達成しており、優れた成果をおさめている。
優	3	到達目標を十分に達成している。
良	2	到達目標を達成している。
可	1	到達目標を最低限達成している。
不可	0	到達目標を達成していない。

GPA の計算例 $GPA = (\text{科目の単位数} \times GP) \text{ の合計} / \text{全科目の単位数の合計}$

*小数点第2位下四捨五入、*分母の総単位数には、不合格科目の単位数を含む

客観的な指標の
算出方法の公表方法

<https://www.nmf.ac.jp/koutoukyouiku.html>

<p>4. 卒業の認定に関する方針を定め、公表するとともに、適切に実施していること。</p>	
<p>(卒業の認定方針の策定・公表・適切な実施に係る取組の概要)</p> <p>卒業の認定に関する方針</p> <p>臨床工学科</p> <p>本校臨床工学科に3年以上在籍し、必修科目が全て合格であると卒業が認定され、専門士の称号が与えられます。卒業が認定されると臨床工学技士国家試験受験資格が与えられます。</p> <p>臨床工学技士として必要な知識、技術力を持ち、医師や他の医療スタッフと連携し、チーム医療を実現していく。また、他の医療スタッフとの情報の共有のためのコミュニケーション能力を身につける。患者さん対応などで人に対していたわりの心で接する事の出来る人間力を身につけていること下記の能力を身につけた人材に専門士の称号を授与します。</p> <p>① 高度な先端医療機器を扱うために必要な知識と技術力 ② チーム医療で必要な協調性とコミュニケーション能力 ③ 医療人としてふさわしい人間力</p> <p>内容は本校のホームページにて公表を行う。</p>	
<p>卒業の認定に関する 方針の公表方法</p>	<p>https://www.nmf.ac.jp/koutoukyouiku.html</p>

<p>(卒業の認定方針の策定・公表・適切な実施に係る取組の概要)</p> <p>卒業の認定に関する方針</p> <p>臨床工学専攻科</p> <p>本校臨床工学専攻科に2年以上在籍し、必修科目が全て合格であると卒業が認定されます。卒業が認定されると臨床工学技士国家試験受験資格が与えられます。</p> <p>臨床工学技士として必要な知識、技術力を持ち、医師や他の医療スタッフと連携し、チーム医療を実現していく。また、他の医療スタッフとの情報の共有のためのコミュニケーション能力を身につける。患者さん対応などで人に対していたわりの心で接する事の出来る人間力を身につけていること下記の能力を身につけた人材に専門士の称号を授与します。</p> <p>④ 高度な先端医療機器を扱うために必要な知識と技術力 ⑤ チーム医療で必要な協調性とコミュニケーション能力 ⑥ 医療人としてふさわしい人間力</p> <p>内容は本校のホームページにて公表を行う。</p>	
<p>卒業の認定に関する 方針の公表方法</p>	<p>https://www.nmf.ac.jp/koutoukyouiku.html</p>

<p>(卒業の認定方針の策定・公表・適切な実施に係る取組の概要)</p> <p>卒業の認定に関する方針</p> <p>こども福祉学科</p> <p>「こども福祉学科」(昼間2年の通学制)は、ソーシャルワークの力量を兼ね備えた保育士の養成を目標とし、「保育士」とソーシャルワークの基礎資格としての「社会福祉士」のWライセンスの取得をめざして、卒業時に「保育士」の資格を取得するのに必要な科目、および「社会福祉士」の国家試験受験に必要な科目を中心に学び、各々の専門的知識と技術及び価値観を持った保育者を育成することをめざしている。</p> <p>以下の資質・能力を身に付け、所定の68単位を修めた者に学位(専門士)を与える。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 教育・保育に必要な専門性 一人ひとりの子どもの最善の利益を第一に考え、子どもを理解し、援助する保育者として、保育を通してその福祉を学び、探究し向上しようとする態度を有している。 2. 保育の実践技術力 保育現場での経験が豊富な講師の指導により、保育のプロとして求められる実践的な技術を習得している。 3. 人間力・適応力 社会人としての教養、豊かな感性を身に付け、子どもの立場に立って共感できる力を身に付けている。また、コミュニケーション力を発揮し、他と協働しながら様々な問題に対応し解決できる実践力を習得している。 	
卒業の認定に関する方針の公表方法	http://www.nmf.ac.jp/koutoukyouiku.html

<p>(卒業の認定方針の策定・公表・適切な実施に係る取組の概要)</p> <p>卒業の認定に関する方針</p> <p>保育士科</p> <p>「保育士科」(3年の通信制)は、地域や時間に縛られず、多様な可能性が発揮できる学びの場で、根拠に裏付けされた実践力と対象者への深い慈しみの心を持った保育士の養成を目標とし、卒業時に「保育士」の資格取得に必要な科目履修にとどまらず、共生社会を支えることのできる人材育成をめざしている。</p> <p>以下の資質・能力を身に付け、所定の68単位を納めた者に学位(専門士)を与える。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 教育・保育に必要な専門性 一人ひとりの子どもの最善の利益を第一に考え、子どもを理解し、援助する保育者として、保育を通してその福祉を学び、探究し向上しようとする態度を有している。 2. 保育の実践技術力 保育現場での経験が豊富な講師の指導により、保育のプロとして求められる実践的な技術を習得している。 3. 人間力・適応力 社会人としての教養、豊かな感性を身に付け、子どもの立場に立って共感できる力を身に付けている。また、コミュニケーション力を発揮し、他と協働しながら様々な問題に対応し解決できる実践力を習得している。 	
卒業の認定に関する方針の公表方法	http://www.nmf.ac.jp/koutoukyouiku.html

(卒業の認定方針の策定・公表・適切な実施に係る取組の概要)

日本語学科 (昼間 2 年)

当学科では、大学等の高等教育進学に対応でき、日本での社会生活に支障のない総合的な日本語能力の習得を目標とし、日本語能力試験 (JLPT) N1、N2、N3 合格と日本留学試験 (EJU) の高得点 (250 点以上) 取得を目指してそれに必要な科目を中心に学ぶとともに、日本の生活様式や慣習等の文化に対する知識も深めながら、語学能力と異文化理解の両面において優れた人材の育成を目的としている。

学則に定める授業科目を履修して、所定の単位を取得し、以下に定める要件を満たした者に対して卒業を認定し、文化教養専門士の学位を授与する。

- 1、学則に定められた授業科目及び単位数を取得している。
- 2、日本での高等教育進学および社会生活に支障のない必要十分な日本語の語学知識と運用能力を修得している。
- 3、豊かな教養と広い見識を修得している。

卒業の認定に関する
方針の公表方法

<http://www.nmf.ac.jp/koutoukyouiku.html>

(卒業の認定方針の策定・公表・適切な実施に係る取組の概要)

日本語学科 (昼間 1、5 年)

当学科では、大学等の高等教育進学に対応でき、日本での社会生活に支障のない総合的な日本語能力の習得を目標とし、日本語能力試験 (JLPT) N1、N2、N3 合格と日本留学試験 (EJU) の高得点 (250 点以上) 取得を目指してそれに必要な科目を中心に学ぶとともに、日本の生活様式や慣習等の文化に対する知識も深めながら、語学能力と異文化理解の両面において優れた人材の育成を目的としている。

学則に定める授業科目を履修して、所定の単位を取得し、以下に定める要件を満たした者に対して卒業を認定する。

- 1、学則に定められた授業科目及び単位数を取得している。
- 2、日本での高等教育進学および社会生活に支障のない必要十分な日本語の語学知識と運用能力を修得している。
- 3、豊かな教養と広い見識を修得している。

卒業の認定に関する
方針の公表方法

<http://www.nmf.ac.jp/koutoukyouiku.html>

(卒業の認定方針の策定・公表・適切な実施に係る取組の概要)

日本語学科 (昼間1年)

当学科では、大学等の高等教育進学に対応でき、日本での社会生活に支障のない総合的な日本語能力の習得を目標とし、日本語能力試験 (JLPT) N1、N2、N3 合格と日本留学試験 (EJU) の高得点 (250 点以上) 取得を目指してそれに必要な科目を中心に学ぶとともに、日本の生活様式や慣習等の文化に対する知識も深めながら、語学能力と異文化理解の両面において優れた人材の育成を目的としている。

学則に定める授業科目を履修して、所定の単位を取得し、以下に定める要件を満たした者に対して卒業を認定する。

- 1、学則に定められた授業科目及び単位数を取得している。
- 2、日本での高等教育進学および社会生活に支障のない必要十分な日本語の語学知識と運用能力を修得している。
- 3、豊かな教養と広い見識を修得している。

卒業の認定に関する
方針の公表方法

<http://www.nmf.ac.jp/koutoukyouiku.html>

様式第2号の4-②【(4)財務・経営情報の公表（専門学校）】

※専門学校は、この様式を用いること。大学・短期大学・高等専門学校は、様式第2号の4-①を用いること。

学校名	日本メディカル福祉専門学校
設置者名	学校法人 瓶井学園

1. 財務諸表等

財務諸表等	公表方法
貸借対照表	https://kamei.ac.jp/closing/zaimusyhyou/kansa.htm
収支計算書又は損益計算書	https://kamei.ac.jp/closing/zaimusyhyou/kansa.htm
財産目録	https://kamei.ac.jp/closing/zaisanmokuroku/mokuroku.pdf
事業報告書	https://kamei.ac.jp/closing/jigyohoukokusyo/jigyohou.pdf
監事による監査報告（書）	https://kamei.ac.jp/closing/kansahoukokusyo/kansa.pdf

2. 教育活動に係る情報

①学科等の情報

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
医療		医療専門課程	臨床工学科（旧）	文部科学省 告示 平成12年 17号	—		
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
3年	昼	2940 単位時間	2310 単位時間		510 単位時間	120 単位時間	
	単位時間／単位						
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
40人		14人	0人	7人	28人	35人	

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）
（概要） 教務会議で教育方針を決定し、各科目の到達目標を設定各科目間のバランス、各科目の授業レベルを決定する。その指針に基づいて授業の方法及び内容、到達目標、成績評価の方法や基準、実務経験等事項を記載したものを作成し、公表している。
成績評価の基準・方法
（概要） シラバスにより、各試験、レポート、平常点（学習の意欲）の割合などを記載し、それののっとり、各教員より成績評価をいただく。 また複数の教員が授業を行う場合は、全ての成績を合算し、平均をとって最終的な成績評価としている。

卒業・進級の認定基準
(概要) 1、2年生においての各学年での設定科目が成績で60点以上であり、出席数が全体の3/4以上、各科目の出席数が2/3以上で進級することができる。 3年生においては、第1回～第7回までの卒業試験の平均が60点以上でかつ第7回卒業試験が60点以上であること。また3年生の設定科目が成績60点以上であり、出席数が全体の3/4以上、各科目の出席が2/3以上で卒業することができる。
学修支援等
(概要) 学生の質問には個別で対応している。また各学年で担任より個人面談を実施しており、問題点があれば把握し対処している。場合によっては保護者を交えて面談も行う。

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
12人 (100%)	2人 (16.7%)	6人 (50.0%)	4人 (33.3%)
(主な就職、業界等) 病院、クリニックなど			
(就職指導内容) 個人面談を行い、学生の希望する就職先を見学など行い、最終的に受験してもらっている。履歴書の書き方の指導、面接でのポイントなどのアドバイスを行っている。			
(主な学修成果（資格・検定等）) 臨床工学技士国家試験や第2種ME検定試験の合格をめざしている。			
(備考)（任意記載事項）			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
37人	4人	10.8%
(中途退学の主な理由) 本人の希望による進路変更		
(中退防止・中退者支援のための取組) 補習授業の実施および個人面談や校長面接、保護者との連絡、3者面談など		

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
医療		医療専門課程	臨床工学科（新）	文部科学省 告示 平成12年 17号	—		
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
3年	昼	2955 単位時間	2325 単位時間		510 単位時間	120 単位時間	
			単位時間／単位				
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
70人		16人	0人	7人	28人	35人	

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）
<p>（概要） 教務会議で教育方針を決定し、各科目の到達目標を設定各科目間のバランス、各科目の授業レベルを決定する。その指針に基づいて授業の方法及び内容、到達目標、成績評価の方法や基準、実務経験等事項を記載したものを作成し、公表している。</p>
<p>成績評価の基準・方法</p> <p>（概要） シラバスにより、各試験、レポート、平常点（学習の意欲）の割合などを記載し、それによつて、各教員より成績評価をいただく。 また複数の教員が授業を行う場合は、全ての成績を合算し、平均をとつて最終的な成績評価としている。</p>
<p>卒業・進級の認定基準</p> <p>（概要） 1、2年生においての各学年での設定科目が成績で60点以上であり、出席数が全体の3/4以上、各科目の出席数が2/3以上で進級することができる。 3年生においては、第1回～第7回までの卒業試験の平均が60点以上でかつ第7回卒業試験が60点以上であること。また3年生の設定科目が成績60点以上であり、出席数が全体の3/4以上、各科目の出席が2/3以上で卒業することができる。</p>
<p>学修支援等</p> <p>（概要） 学生の質問には個別で対応している。また各学年で担任より個人面談を実施しており、問題点があれば把握し対処している。場合によっては保護者を交えて面談も行う。</p>

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 （自営業を含む。）	その他
0人 (0%)	0人 (0%)	0人 (0%)	0人 (0%)

(主な就職、業界等) 病院、クリニックなど
(就職指導内容) 個人面談を行い、学生の希望する就職先を見学など行い、最終的に受験してもらっている。履歴書の書き方の指導、面接でのポイントなどのアドバイスを行っている。
(主な学修成果(資格・検定等)) 臨床工学技士国家試験や第2種ME検定試験の合格をめざしている。
(備考) (任意記載事項) 新カリキュラムのため1、2年生しか在籍しておらず、卒業生はおりません。

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
7人	1人	14.3%
(中途退学の主な理由) 進路変更		
(中退防止・中退者支援のための取組) 補習授業の実施および個人面談や校長面接、保護者との連絡、3者面談など		

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
医療		医療専門課程	臨床工学専攻科	—	—		
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
2年	夜	1620 単位時間	1380 単位時間		180 単位時間	60 単位時間	
			単位時間／単位				
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
60人		1人	0人	4人	13人	17人	

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）
<p>（概要）</p> <p>教務会議で教育方針を決定し、各科目の到達目標を設定各科目間のバランス、各科目の授業レベルを決定する。その指針に基づいて授業の方法及び内容、到達目標、成績評価の方法や基準、実務経験等事項を記載したものを作成し、公表している。</p>
<p>成績評価の基準・方法</p> <p>（概要）</p> <p>シラバスにより、各試験、レポート、平常点（学習の意欲）の割合などを記載し、それののっとり、各教員より成績評価をいただく。</p> <p>また複数の教員が授業を行う場合は、全ての成績を合算し、平均をとって最終的な成績評価としている。</p>
<p>卒業・進級の認定基準</p> <p>（概要）</p> <p>1年生においての各学年での設定科目が成績で60点以上であり、出席数が全体の3/4以上、各科目の出席数が2/3以上で進級することができる。</p> <p>2年生においては、第1回～第7回までの卒業試験の平均が60点以上でかつ第7回卒業試験が60点以上であること。また3年生の設定科目が成績60点以上であり、出席数が全体の3/4以上、各科目の出席が2/3以上で卒業することができる。</p>
<p>学修支援等</p> <p>（概要）</p> <p>学生の質問には個別で対応している。また各学年で担任より個人面談を実施しており、問題点があれば把握し対処している。場合によっては保護者を交えて面談も行う。</p>

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 （自営業を含む。）	その他
4人 (100%)	1人 (25%)	3人 (75%)	0人 (0%)

(主な就職、業界等) 病院、クリニックなど
(就職指導内容) 個人面談を行い、学生の希望する就職先を見学など行い、最終的に受験してもらっている。履歴書の書き方の指導、面接でのポイントなどのアドバイスを行っている。
(主な学修成果(資格・検定等)) 臨床工学技士国家試験や第2種ME検定試験の合格をめざしている。
(備考) (任意記載事項)

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
5人	0人	0%
(中途退学の主な理由)		
(中退防止・中退者支援のための取組) 個人面談や質問対応など		

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
教育・社会福祉		社会福祉専門課程	こども福祉学科	文部科学省 告示平成21 年第21号	-		
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
	昼		講義	演習	実習	実験	実技
2年	昼	1800 時間	720 時間	960 時間	320 時間	45時間	
	単位時間/単位						
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
120人		9人	1人	9人	17人	26人	

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）	
<p>（概要）</p> <p>教務会議で教育指針を決定し、その指針に基づいて各教員により、授業の方法内容、到達目標・成績評価の方法を記載した授業概要を作成していただき、それに従った内容で授業を行っている。また、授業概要を日本メディカル福祉専門学校のホームページにて公表を行う。</p>	
<p>成績評価の基準・方法</p> <p>（概要）</p> <p>授業概要により、定期試験、授業への意欲度の割合などを記載し、それに則り、各教員より成績評価をいただく。</p> <p>また複数の教員が授業を行う場合は、授業時間に応じた割合において算出し、最終的な成績評価としている。</p>	
<p>卒業・進級の認定基準</p> <p>（概要）</p> <p>1年生において、設定科目が成績で60点以上であり、出席数が全体の3/4以上、各科目の出席数が2/3以上で進級することができる。</p> <p>2年生においては、設定科目が成績60点以上であり、出席数が全体の3/4以上、各科目の出席が2/3以上で卒業することができる。</p>	
<p>学修支援等</p> <p>（概要）</p> <p>学生の質問には個別で対応している。また各学年で担任より個人面談を実施しており、問題点があれば把握し対処している。場合によっては保護者を交えて面談も行う。</p>	

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
5人 (100%)	0人 (0%)	3人 (60%)	2人 (40%)
<p>（主な就職、業界等）</p> <p>自営業、児童養護施設</p>			
<p>（就職指導内容）</p> <p>個人面談を行い、学生の希望する就職・進学先の情報提供を行い、見学等の紹介をする。</p>			

また、履歴書・志願書の書き方指導、面接でのポイントなどのアドバイスを行っている。
(主な学修成果(資格・検定等)) 保育士資格
(備考) (任意記載事項)

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
10人	1人	10%
(中途退学の主な理由) 病気		
(中退防止・中退者支援のための取組) 定期的に連絡をとり、面談機会を設けて相談にのっていき、できることはサポートしていく。また、場合によっては保護者を交えて面談も行う。		

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
教育・社会福祉		社会福祉専門課程	保育士科	文部科学省 告示 平成31年第3号	-		
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
3年		68単位	72単位	29単位	8単位	単位 1単位	
単位時間/単位							
生徒総定員数	生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数		
360人	61人	0人	11人	18人	29人		
カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）							
<p>（概要）</p> <p>教務会議で教育指針を決定し、その指針に基づいて各教員により、授業の方法内容、到達目標・成績評価の方法を記載した授業概要を作成していただいております。それに従った内容で授業を行っている。また、授業概要を日本メディカル福祉専門学校のホームページにて公表を行う。</p>							
成績評価の基準・方法							
<p>（概要）</p> <p>授業概要により、レポート、面接授業評価（学習の意欲度）の割合などを記載し、それののっとり、各教員より成績評価をいただく。</p> <p>また複数の教員が授業を行う場合は、全ての成績を合算し、平均をとって最終的な成績評価としている。</p>							
卒業・進級の認定基準							
<p>（概要）</p> <p>卒業認定の基準は、各設定面接授業への参加、および全設定科目が成績60点以上で卒業することができる。</p>							
学修支援等							
<p>（概要）</p> <p>学生の質問にはメールや電話、登校時、個別で対応し、問題点があれば把握し、対処している。場合によっては保護者を交えて面談も行う。</p>							

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 （自営業を含む。）	その他
12人 (100%)	0人 (0%)	7人 (58%)	5人 (41%)
<p>（主な就職、業界等）</p> <p>保育園・認定こども園・放課後等デイサービス</p>			
<p>（就職指導内容）</p> <p>学生の希望する就職先の情報提供をする。</p>			

(主な学修成果 (資格・検定等)) 保育士資格
(備考) (任意記載事項)

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
60 人	4 人	6.6%
(中途退学の主な理由) 病気 など		
(中退防止・中退者支援のための取組) 個人面談の実施、保護者への連絡、別指導など		

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
文化教養課程		文化教養課程	日本語学科	文部科学省告示 平成 22 年第 152 号	-		
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
2 年	昼間	1800 時間	1800 時間	時間	時間	時間	時間
			単位時間/単位				
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
60 人		67 人	67 人	3 人	9 人	12 人	

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）

（概要）

教務会議にて、到達目標・授業内容及び教授法・科目間バランス・授業レベル・成績評価方法及び基準を決定しシラバスを作成、公表する。

成績評価の基準・方法

（概要）

公表しているシラバスの内容に基づき、以下の方法にて成績評価を行っている。

- ① 学業成績は、授業概要に記載のある各科目の「単位認定の方法及び評価の基準」に基づく客観的基準により決定される。
- ② 評価は、秀（100点～90点）・優（89点～80点）・良（79点～70点）・可（69点～60点）・不可（59点以下）で、60点以上を合格とし、それに満たない者は不合格とする。
- ③ 客観的評価 GPA 制度について

GPA とは、「Grade Point Average」の略で、授業科目の成績評価に対して点数 GP (Grade Point) を与え、その点数に各科目の単位数を乗じた合計を、各学年の科目の総単位数で割って算出した平均値のことをいう。

【成績評価基準と GP】

成績評価	GP	備考
秀	4	到達目標を十分に達成しており、優れた成果をおさめている。
優	3	到達目標を十分に達成している。
良	2	到達目標を達成している。
可	1	到達目標を最低限達成している。
不可	0	到達目標を達成していない。

GPA の計算例 $GPA = (\text{科目の単位数} \times GP) \text{ の合計} / \text{全科目の単位数の合計}$

※小数点第 2 位以下四捨五入。

※分母の総単位数には、不合格科目の単位数も含む。

卒業・進級の認定基準

（概要）

設定科目の成績評価が 60 点以上であり、出席時数が総授業時数の 3/4 以上、各科目の出席時数が総授業時数の 2/3 以上で進級または卒業することができる。

学修支援等
(概要) クラス担任制を取っており、学生全員に個別対応している。また必要に応じて、学生個別面談・学習支援・電話連絡・文書送付・(在母国の)保護者との面談等を実施。

卒業生数、進学者数、就職者数 (直近の年度の状況を記載)			
卒業生数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
49人 (100%)	39人 (79.6%)	3人 (6.1%)	7人 (14.3%)
(主な就職、業界等) 当学科は大学等の高等教育進学が本来であるものの、「技術・人文知識・国際業務」の在留資格をもって製造業、サービス業に就く者もいる。			
(就職指導内容) 希望者には適宜個人面談を実施のうえ、履歴書の書き方指導、面接指導等の助言を行う。			
(主な学修成果(資格・検定等)) 日本語能力試験(JLPT) N1/N2/N3 日本留学試験			
(備考) (任意記載事項)			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者 の数	中退率
66人	4人	6.1%
(中途退学の主な理由) コロナ感染拡大に伴い経費支弁者が経済的に困窮し、留学は継続困難と判断し帰国した。		
(中退防止・中退者支援のための取組) クラス担任が個別面談のうえ支援・指導を行い、状況によっては母国の経費支弁者ないしは保護者とも話し合いのうえ、方針を協議する。		

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
文化教養課程		文化教養課程	日本語学科	-	-		
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
1.5年	昼間	1350 時間	1350 時間	時間	時間	時間	時間
			単位時間/単位				
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
40人		15人	15人	3人	9人	12人	

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）

（概要）

教務会議にて、到達目標・授業内容及び教授法・科目間バランス・授業レベル・成績評価方法及び基準を決定しシラバスを作成、公表する。

成績評価の基準・方法

（概要）

公表しているシラバスの内容に基づき、以下の方法にて成績評価を行っている。

- ④ 学業成績は、授業概要に記載のある各科目の「単位認定の方法及び評価の基準」に基づく客観的基準により決定される。
- ⑤ 評価は、秀（100点～90点）・優（89点～80点）・良（79点～70点）・可（69点～60点）・不可（59点以下）で、60点以上を合格とし、それに満たない者は不合格とする。
- ⑥ 客観的評価 GPA 制度について

GPA とは、「Grade Point Average」の略で、授業科目の成績評価に対して点数 GP (Grade Point) を与え、その点数に各科目の単位数を乗じた合計を、各学年の科目の総単位数で割って算出した平均値のことをいう。

【成績評価基準と GP】

成績評価	GP	備考
秀	4	到達目標を十分に達成しており、優れた成果をおさめている。
優	3	到達目標を十分に達成している。
良	2	到達目標を達成している。
可	1	到達目標を最低限達成している。
不可	0	到達目標を達成していない。

GPA の計算例 $GPA = (\text{科目の単位数} \times GP) \text{ の合計} / \text{全科目の単位数の合計}$

※小数点第 2 位以下四捨五入。

※分母の総単位数には、不合格科目の単位数も含む。

卒業・進級の認定基準

（概要）

設定科目の成績評価が 60 点以上であり、出席時数が総授業時数の 3/4 以上、各科目の出席時数が総授業時数の 2/3 以上で進級または卒業することができる。

学修支援等
(概要) クラス担任制を取っており、学生全員に個別対応している。また必要に応じて、学生個別面談・学習支援・電話連絡・文書送付・(在母国の)保護者との面談等を実施。

卒業生数、進学者数、就職者数 (直近の年度の状況を記載)			
卒業生数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
21人 (100%)	15人 (71%)	0人 (0%)	6人 (29%)
(主な就職、業界等) 当学科は大学等の高等教育進学が本来であるものの、「技術・人文知識・国際業務」の在留資格をもって製造業、サービス業に就く者もいる。			
(就職指導内容) 希望者には適宜個人面談を実施のうえ、履歴書の書き方指導、面接指導等の助言を行う。			
(主な学修成果(資格・検定等)) 日本語能力試験(JLPT) N1/N2/N3 日本留学試験			
(備考) (任意記載事項)			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者 の数	中退率
41人	4人	9.8%
(中途退学の主な理由) コロナ感染拡大に伴い経費支弁者が経済的に困窮し、留学は継続困難と判断し帰国した。		
(中退防止・中退者支援のための取組) クラス担任が個別面談のうえ支援・指導を行い、状況によっては母国の経費支弁者ないしは保護者とも話し合いのうえ、方針を協議する。		

分野	課程名	学科名	専門士	高度専門士			
文化教養課程	文化教養課程	日本語学科	-	-			
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
1年	昼間	900 時間	900 時間	時間	時間	時間	時間
			単位時間/単位				
生徒総定員数	生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数		
20人	2人	2人	3人	9人	12人		

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）																		
<p>（概要）</p> <p>教務会議にて、到達目標・授業内容及び教授法・科目間バランス・授業レベル・成績評価方法及び基準を決定しシラバスを作成、公表する。</p>																		
成績評価の基準・方法																		
<p>（概要）</p> <p>公表しているシラバスの内容に基づき、以下の方法にて成績評価を行っている。</p> <p>⑦ 学業成績は、授業概要に記載のある各科目の「単位認定の方法及び評価の基準」に基づく客観的基準により決定される。</p> <p>⑧ 評価は、秀（100点～90点）・優（89点～80点）・良（79点～70点）・可（69点～60点）・不可（59点以下）で、60点以上を合格とし、それに満たない者は不合格とする。</p> <p>⑨ 客観的評価 GPA 制度について</p> <p>GPA とは、「Grade Point Average」の略で、授業科目の成績評価に対して点数 GP (Grade Point) を与え、その点数に各科目の単位数を乗じた合計を、各学年の科目の総単位数で割って算出した平均値のことをいう。</p> <p>【成績評価基準と GP】</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>成績評価</th> <th>GP</th> <th>備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>秀</td> <td>4</td> <td>到達目標を十分に達成しており、優れた成果をおさめている。</td> </tr> <tr> <td>優</td> <td>3</td> <td>到達目標を十分に達成している。</td> </tr> <tr> <td>良</td> <td>2</td> <td>到達目標を達成している。</td> </tr> <tr> <td>可</td> <td>1</td> <td>到達目標を最低限達成している。</td> </tr> <tr> <td>不可</td> <td>0</td> <td>到達目標を達成していない。</td> </tr> </tbody> </table> <p>GPA の計算例 $GPA = (\text{科目の単位数} \times GP) \text{ の合計} / \text{全科目の単位数の合計}$</p> <p>※小数点第2位以下四捨五入。</p> <p>※分母の総単位数には、不合格科目の単位数も含む。</p>	成績評価	GP	備考	秀	4	到達目標を十分に達成しており、優れた成果をおさめている。	優	3	到達目標を十分に達成している。	良	2	到達目標を達成している。	可	1	到達目標を最低限達成している。	不可	0	到達目標を達成していない。
成績評価	GP	備考																
秀	4	到達目標を十分に達成しており、優れた成果をおさめている。																
優	3	到達目標を十分に達成している。																
良	2	到達目標を達成している。																
可	1	到達目標を最低限達成している。																
不可	0	到達目標を達成していない。																
卒業・進級の認定基準																		
<p>（概要）</p> <p>設定科目の成績評価が 60 点以上であり、出席時数が総授業時数の 3/4 以上、各科目の出席時数が総授業時数の 2/3 以上で進級または卒業することができる。</p>																		

学修支援等
(概要) クラス担任制を取っており、学生全員に個別対応している。また必要に応じて、学生個別面談・学習支援・電話連絡・文書送付・(在母国の)保護者との面談等を実施。

卒業生数、進学者数、就職者数 (直近の年度の状況を記載)			
卒業生数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
0人 (%)	0人 (%)	0人 (%)	0人 (%)
(主な就職、業界等) 当学科は大学等の高等教育進学が本来であるものの、「技術・人文知識・国際業務」の在留資格をもって製造業、サービス業に就く者もいる。			
(就職指導内容) 希望者には適宜個人面談を実施のうえ、履歴書の書き方指導、面接指導等の助言を行う。			
(主な学修成果(資格・検定等)) 日本語能力試験(JLPT) N1/N2/N3 日本留学試験			
(備考) (任意記載事項)			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者 の数	中退率
0人	0人	0%
(中途退学の主な理由) なし		
(中退防止・中退者支援のための取組) クラス担任が個別面談のうえ支援・指導を行い、状況によっては母国の経費支弁者ないしは保護者とも話し合いのうえ、方針を協議する		

②学校単位の情報

a) 「生徒納付金」等

学科名	入学金	授業料 (年間)	その他	備考 (任意記載事項)
臨床工学科	270000 円	1200000 円	113900 円	
臨床工学 専攻科	100000 円	750000 円	50900 円	
こども福 祉学科	200,000 円	900,000 円	20,800 円	
保育士科	30,000 円	194,000 円	3,000 円	
日本語学 科	60000 円	660000 円	56000 円	
修学支援 (任意記載事項)				
臨床工学科の指定校推薦・学校推薦・A0 入試・社会人リカレント入試合格者に対し、入学 金 27 万円、1 年次学費 30 万円、2 年次学費 30 万円、3 年次学費 30 万円免除 臨床工学専攻科の指定校推薦・学校推薦・社会人リカレント入試合格者に対し、入学金 10 万 円、1 年次学費 30 万円、2 年次学費 30 万円免除 こども福祉学科の指定校推薦・学校推薦・ A0 入試・社会人・リカレント入試合格者に対し、入学金 20 万円、1 年次学費 10 万円、2 年 次学費 10 万円免除				

b) 学校評価

自己評価結果の公表方法 (ホームページアドレス又は刊行物等の名称及び入手方法) https://rinsho.nmf.ac.jp/hyoka/index.html https://kodomo-fukushi.com/kodomofukushi/disclosure.html		
学校関係者評価の基本方針 (実施方法・体制) 学校で作成した自己点検自己評価報告書を基に、学校関係者評価委員会を行い、委員の先生方に各種意見をいただき、その内容を教育に反映させている。		
学校関係者評価の委員		
所属	任期	種別
大阪市立都島工業高校 元校長	令和3年4月1日～ 令和7年3月31日 (任期更新)	高等学校元校長
兵庫県臨床工学技士会 理事	令和4年4月1日～ 令和7年3月31日 (任期更新)	企業等委員
社会福祉法人若葉会 こどものくに 保育園 園長	令和3年4月1日～ 令和7年3月31日 (任期更新)	企業等委員
社会福祉法人 宝塚市社会福祉協議会	令和4年4月1日～ 令和7年3月31日 (任期更新)	卒業生
学校関係者評価結果の公表方法 (ホームページアドレス又は刊行物等の名称及び入手方法) https://rinsho.nmf.ac.jp/hyoka/index.html https://kodomo-fukushi.com/kodomofukushi/disclosure.html		
第三者による学校評価 (任意記載事項)		

c) 当該学校に係る情報

(ホームページアドレス又は刊行物等の名称及び入手方法) https://www.nmf.ac.jp/
--

備考 この用紙の大きさは、日本産業規格A4とする。